

令和2年度常滑市総合教育会議

- 1 日 時 令和2年12月18日(金)
開会 15時00分 閉会 17時00分
- 2 会 場 常滑市役所4階第3会議室
- 3 出席者 常滑市長 伊藤 辰矢
常滑市教育委員会
教 育 長 土方 宗広
委 員 久田 孝寛
委 員 渡辺 慶太郎
委 員 梶田 幸司
委 員 藤田 幸恵
(事務局関係)
教育委員会事務局 教育部長 庄子 健
教育委員会事務局 学校教育課長 関 公司
教育委員会事務局 学校教育課付課長 深津 俊雄
教育委員会事務局 学校教育課付主幹 原 和幸
教育委員会事務局 生涯学習スポーツ課長 浜崎 博充
教育委員会事務局 北学校給食共同調理場長 澤田 真宏
教育委員会事務局 南学校給食共同調理場長 澁木 桂子
企画部 企画課長 近藤 修司
企画部 企画課主任 柿田 寛之
教育委員会事務局 学校教育課主査 久田 圭美
教育委員会事務局 学校教育課主任 竹内 稔将
教育委員会事務局 学校教育課主事 井上 華怜
(説明者)
株式会社フューチャーイン
- 4 傍聴人 なし
- 5 協議事項 (1) 教育大綱の期間延長について
(2) GIGA スクール構想の実現に向けた計画等について
- 6 報告事項 (1) 令和3年度主な教育予算要求事業について

○開 会

教育部長：全員お揃いになり、定刻でございますので、ただいまから常滑市総合教育会議を開催いたします。

それでは、始めに伊藤市長からあいさつをお願いいたします。

○伊藤市長あいさつ

市長：本日は、お忙しい中、総合教育会議にお集まりいただき、ありがとうございます。教育委員の皆様におかれましては、日頃より常滑市の教育行政にご理解ご協力いただき、厚くお礼申し上げます。さて、協議事項は「教育大綱の期間延長について」と「GIGAスクール構想の実現に向けた計画等について」でございます。教育大綱は、第5次総合計画の前期基本計画に基づいて策定されており、期間につきましても、この計画と同じであります。前期基本計画が令和3年度まで継続延長されることを受けて、教育大綱の期間延長を求めるものです。「GIGAスクール構想」は、児童生徒向けの1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、子どもたち一人ひとりに応じた教育を実現させる構想であります。この構想実現のため、ICT環境の整備計画等について、お示しいたします。また、実際にタブレット端末に触れて、授業でどのように活用できるかを見ていただきます。報告事項は「令和3年度主な教育予算要求事業について」で、現段階での来年度予算の見込みの報告をいたします。本日は、教育委員の皆様から忌憚のないご意見をいただき、子どもたち一人ひとりが充実した教育を受けられるよう、教育の向上に努め、次世代を担う人材育成を進めてまいりたいと考えております。以上、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

教育部長：ありがとうございました。では、次第に沿って会議を進めさせていただきます。常滑市総合教育会議設置要綱第4条に基づき総合教育会議は市長が議事の進行を行うことになっておりますのでよろしくをお願いいたします。

○協議事項

(1)「教育大綱の期間延長について」

市長：それでは私が議長を務めさせていただきます。

では、協議事項(1)「教育大綱の期間延長について」事務局から説明をお願いします。

学校教育課長：資料に基づき説明。

市長：ただいま、事務局よりご説明申し上げましたが、何かご意見、ご質問はござ

いませんでしょうか。

市長：総合計画についても前回市民ヒアリングがやりきれないため、延長しましたが、今回難しいようであれば聞き方を変えてでも市民の声を集めて行うことを考えておりますので今の段階でこれ以上の延長は考えておりません。教育大綱につきましても同様に進めさせていただきたいと考えております。次は、協議事項（２）「GIGAスクール構想実現に向けた計画等について」でございますが、飛ばしまして報告事項（１）「令和３年度主な教育予算要求事業について」を先に行わせていただきたいと思います。事務局から説明をお願いします。

○報告事項

（１）「令和３年度主な教育予算要求事業について」

市長：では次に、報告事項（１）「令和３年度主な教育予算要求事業について」説明をお願いいたします。

学校教育課長：資料に基づき説明。

《引き続き、生涯学習スポーツ課長→北学校給食共同調理場長が説明》

市長：只今、事務局より「令和３年度主な教育予算要求事業について」説明がございました。この中で、委員様が特に大切な事業であるなど、お考えやご意見がございましたら、お話いただけませんか。

藤田委員：学校教育課予算２番の「中学校電子黒板リース」についてですが、導入台数30台は何年生用に該当するのでしょうか。

学校教育課長：学校で異なりますが、現在は、各学年に１～２台程度共有して使用されています。本年度GIGAスクールの関係でタブレット端末も導入されますので、全てのクラスに電子黒板を整備できるようにするためのものです。小学校も同様にタブレット端末が導入されますので、電子黒板等を整備していく予定です。小学校３年生以上のクラスには年明けから整備されます。年度末までに小学校１・２年生のクラスにも整備できるよう進めております。

藤田委員：ありがとうございます。生涯学習スポーツ課の４番「オリンピック・パラリンピック関連事業開催費」で主な事業内容に「パラリンピック聖火フェスティバルの実施」とありますが、具体的にどのようなことが実施されるのでしょうか。

生涯学習スポーツ課長：今のところ考えているのが株式会社LIXILと連携して、オリンピック・パラリンピックの聖火リレーのトーチをデザインされた世界的に有名なデザイナーに携わっていただき、障がい者の方や小学生と常滑焼で桜の花びらを制作して、デザイナーによってデザインした聖火台のようなものを作ろうと考えております。今回要求した予算については、障がい者の方や子どもたちが作る常滑焼の材料費のみを予算要求しております。その他の費用は株式

会社LIXILから提供していただけます。

市長：他に何かございませんでしょうか。貴重なご意見ありがとうございました。令和3年度予算については、現在査定中ですが、予算編成につきましては、十分審議させていただき、議会で議決されました後、事務局より改めて、ご説明申し上げますのでよろしくお願いいたします。次に協議事項（2）「GIGAスクール構想の実現に向けた計画等について」、事務局から説明をお願いします。

○協議事項

（2）「GIGAスクール構想の実現に向けた計画等について」

市長：では次に、協議事項（2）「GIGAスクール構想の実現に向けた計画等について」事務局より説明をお願いいたします。

学校教育課長：資料に基づき説明。

市長：ただいま、事務局よりご説明申し上げましたが、何かご意見、ご質問はございませんでしょうか。

教育長：「（3）ICT活用計画及び達成状況を踏まえたフォローアップ計画」において2点お聞きしたいです。1点目が「各年度におけるICT活用目標」について保護者目線で考えてみましたが、2020年度の目標として1日1回以上活用することが目標となっていますが、何を以て1回なのでしょう。1時間の授業で45分使って1回なのか、5分使用すれば1回なのか、最初と最後5分を利用すれば2回なのか、回数のカウントの仕方について教えてください。2点目に、「達成状況を踏まえたフォローアップ」の目標未達成の学校については、ICT活用に関する研修を実施とありますが、誰が誰に対して行う研修でしょうか。該当学校の教職員全体に行うのか、活用ができていない教科担任に焦点化して行うのか、現在の見込みについて教えてください。

学校教育課長：1点目の回数についてですが、いきなり高いハードルを設けるつもりはございません。2020年度タブレットが整備されるのが2月末までのため、実際にタブレットを活用できるのは1か月ほどしかありませんので朝来て体調確認をすることを1回とカウントすることから始める予定です。授業だけでなく、学校生活で1日1回使用することを目標と考えています。2点目の研修対象は状況にもよりますが、全く使えていないようであれば校長、教頭、教務主任等に向けて行います。内容につきましては、どういうところが使いづらいかを聞き、ICT支援員等を活用してフォローする予定です。

教育長：朝の観察を1回とカウントするとすべての学校が目標達成となりますが、それでいいのかと思います。朝の観察を除外して、授業中にどれだけ活用したかをカウントした方がいいと思います。先生にとってはプレッシャーとなると思いますが、そうやっていかないとタブレットを学習に活用した機会を奪っていくのではないかと思います。なので、もう少しハードルを上げてもいいんで

はないでしょうか。また、各年度終了後に活用状況を取りまとめるのではなく、まずは1学期で取りまとめたほうがいいのではないのでしょうか。夏休み期間中に教育委員会が集計・分析をして、活用できていない学校に対しては教育委員会が学校を訪問して、該当教員からヒアリングをして指導をした方が2学期に向けて効果的な活用ができると思いますので年度末ごとに取りまとめるのではなく、まずは1学期終了後に取りまとめられるようハードルを上げてもいいのではないのでしょうか。小学校1年生の段階では読み書きや鉛筆の持ち方を学んでいるため、タブレットを1日1回活用するというのはなかなかハードルが高いと思いますので学年によって回数の差をつけてもいいと思います。可能であれば、教務主任者会や教頭会等で目標を検討して、現場の教員が自分たちで目標を設定できる機会を設けていただけるとありがたいです。

市長：他は何かございませんでしょうか。

渡辺委員：当初の計画より前倒しでペースが早くなりましたが、そのことに対して学校現場の意見を聞いているのであれば教えてほしいです。また、保護者に対してGIGAスクールはどれくらい周知・理解されているのでしょうか。保護者の期待や不安などの意見を知っているのであれば教えてください。

学校教育課長：学校現場の受け止めとしては、すでにGIGAスクールサポーターを雇用して巡回を始めていますが、やはり先生たちは戸惑っているようです。しかしながら、教育現場でタブレットを活用して授業を進めていくために、GIGAスクールサポーターをうまく活用していただきたいです。保護者に対する周知については、保護者から「リモート授業は考えられないのか。」などの声があったのでタブレットを活用することに期待はされていると受け止めています。

市長：よろしいのでしょうか。この後、実際に使っていただいてからまたご意見を伺いたいと思います。それでは、ここでタブレット端末に触れながら、授業での活用方法を見ていただきます。では、学校でICT活用の支援をお願いする方から説明をお願いします。

説明者：資料に基づき、説明とタブレットを活用して実演。

市長：ありがとうございます。質疑応答を受けたいと思いますが、何かございますでしょうか。

市長：一人一人アカウントを持つということですが、管理はできるものなのでしょうか。教員は児童生徒の動作がわかるものなのでしょうか。

説明者：電源を入れたかは、授業支援ツールによって確認することができます。アカウントについては、通常のアカウントと異なり、GSuiteというアプリケーションを利用して、管理者（教育委員会）が発行するアカウントになります。そのため、管理者からは、最終ログインが何日か、どのアプリを何時間使用したか、外部にどれだけメールを送ったか等がわかります。制限やパスワードの再発行なども可能です。

市長：先ほど送られていた掲示板のメッセージは、教師用アカウントから、見たか

の確認はできるのでしょうか。

説明者：授業支援ツールを活用すれば、起動していない子どものアカウントは足跡リストに載ってこないため、見ていない子どもを把握することは可能です。

市長：自宅でオンライン授業を行った際に子どもが開始時間に間に合わず授業が始まってしまった場合は、教員のタブレットから把握することは可能でしょうか。

説明者：今回実演していませんが、Google meet というビデオ会議のソフトを活用すれば、参加していない子どもの把握は可能です。

市長：教師から参加する子どものメンバーを決めることはできるのでしょうか。小さいグループとかできますか。

説明者：可能です。委員会・部活動単位でグループ形成することも可能です。また、全校、学年、クラスなどでも可能です。

市長：他にありますでしょうか。

渡辺委員：自治体ごとに OS は、選べるんですか。

説明者：選ぶことができます。

市長：本市でも Windows、iPad、chrome が選択肢として挙がっていましたが、chrome を採用しました。傾向的に愛知県は、何の OS が多いですか。

学校教育課長：愛知県は、apple の iPad が多いですが、全国では半分以上が chrome です。apple だと純正の付属品が高価だったり、USB が差せないなどがあったため、常滑市としては、chrome が使いやすいと考えたため採用しました。しかしながら、中のソフト等は大きく変わらないため教員にとっても苦ではないはずです。

市長：他に何かありますでしょうか。

久田委員：感想になってしまいますがいいのでしょうか。タブレット端末は便利な道具として役に立つと思いますが、必要に応じて使うことが大切だと思います。無理して使う必要はないと思います。日本の教育は、ある程度はみんなができるようにと繰り返し行ってレベルを高くしてきたので、日本人はほとんどの人が字を読むことができます。日本は基礎をしっかりと学んできたので誰でも一定のレベルができるようになっています。GIGA スクールについて初めて説明を受けましたが、「多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人一人に公正に個別最適化される」ということですが、誰でも一定のことのできるということに対してずれが生まれる気がして一人一人に差が出てくることについて違和感を感じます。特に小学校低学年については、顔を見て教育することがとても大事ですので、これから 35 人学級にもなっていくのであれば、タブレットを活用せずに子どもたちの顔や行動を見て健康状態が分かるぐらいの教員じゃないといけないと思います。子どもの顔を見て子どもと対話して、子どもの状態を知ることが大切だと思います。そういった観点から見ると道具の使い方を考えたほうがいいと思います。

市長：道具を使うことによって負担が大きくなっても困ります。活用することによ

って子どもが多様な見方ができたり、教員の負担が軽減されたりしないと導入する意味がないと思います。今、デジタルは過渡期ですので、アナログでやらないといけないこともありますので、道具として上手に活用する必要があると思います。

教育長：子どもの転校や転入に伴い前のデータ引継ぎは可能でしょうか。

説明者：市内の異動であれば引継ぎは可能です。市外だと設定等により引き継げる場合と引き継げない場合があります。

市長：市内在住の外国籍の子どもはタブレットを使えるのでしょうか。

学校教育課長：外国籍の子どものタブレットもあります。しかし、日本語がわからない場合は、紙の教科書同様に CIR の支援を受けながら使用することになります。

市長：何かございますでしょうか。なければ、総合会議の議事を全て終了させていただきます。ご説明していただきありがとうございました。

教育部長：以上をもちまして、令和 2 年度総合教育会議を閉会します。

長時間にわたり、熱心な討議、貴重なご意見ありがとうございました